

評価結果調書

1 事業の概要について

項目	内容
① 事業名	弘済院の認知症医療・介護機能を継承・発展させる新施設の整備事業
② 担当部署	福祉局 弘済院管理課（経営企画グループ）（06- 6208-7930）
③ 事業目的	住吉市民病院跡地において研究施設、病院及び介護老人保健施設からなる新施設の整備を行う。
④ 事業内容	<p>住吉市民病院跡地に新施設を整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弘済院の専門的な認知症医療の機能を、認知症の医療・研究において全国トップレベルにある大阪公立大学（以下「公大」という。）が継承し本市の認知症施策を推進させる。 ・平成 30 年 1 月に公大と取り交わした「住吉市民病院跡地に整備する新病院及び研究施設の運営に関する具体化協議に向けた確認書」をもとに、新施設の整備を本市が行った上で、公大へ出資し、公大が運営主体となることを予定している。 ・よって、本事業において公大以外の運営主体が登場する余地はなく、以下、導入可能な PPP/PFI 手法として DB 方式に絞って検討を行った。

2 PPP/PFI 手法を導入しないこととした理由について

定量評価においては財政支出の削減が期待されるものの、定性評価においては、大阪公立大学が運営主体となる病院として整備を計画しており、関係機関等との協議により病院機能や運営内容等を決定していくことから、性能発注方式にはなじまず、従来型手法（仕様発注）に適性があるものと考え、民間事業者の工夫が認められる余地は乏しいため、検討した PPP/PFI 手法は不採用とした。

3 定量評価結果

	従来型手法	選択した PPP/PFI 手法
① 整備等費用 (運営費除く)	89.9 億円	80.9 億円 (式: 89.9 億円 × 0.9 (削減率 10%) ÷ 80.9 億円)
<算出根拠>	建設予定単価に予定延べ床面積を乗じ算出及び都市整備局見積等	従来型手法より 10%削減の想定
② 運営費等費用	—	—
<算出根拠>	従来型手法の場合は想定せず	想定せず
③ 利用料金収入	—	—
<算出根拠>	従来型手法の場合は想定せず	想定せず
④ 資金調達費用	2.9 億円 (式: (89.9 億円 (整備費用) × 100% (起債充当率) × 起債利率 1.3% ・ 償還期間 20 年の元利均等償還)	2.6 億円 (式: 80.9 億円 (整備費用) × 100% (起債充当率) × 起債利率 1.3% ・ 償還期間 20 年の元利均等償還)
<算出根拠>	想定される起債充当率、起債利率、起債償還方法 (償還期間、償還方法) をもとに算出	同左
⑤ 調査等費用	—	0.25 億円
<算出根拠>	従来型手法の場合は想定せず	導入可能性調査の費用及びその後の業務委託の費用の想定
⑥ 税金	—	—
<算出根拠>	従来型手法の場合は想定せず	
⑦ 税引後損益	—	—
<算出根拠>	従来型手法の場合は想定せず	
⑧ 合計	92.8 億円	83.8 億円
⑨ 合計 (現在価値)	87.1 億円	78.6 億円
⑩ 財政支出削減率 (VFM 試算)	—	VFM は 8.5 億円、9.7%
⑪ その他 (前提条件等)	事業期間 4 年間 割引率 2.6%	事業期間 4 年間 割引率 2.6%